

災害対応への決意新たに

つがる市消防団出初め式



観閲者の福島市長から姿勢・服装の点検を受ける消防団員



感謝状を受け取る前柏地区団長の平川常雄さん



無火災を祈願する箱田消防団長

つがる市の火災発生件数

年	建物	林野	車両	その他	計
平成22	14	1	2	15	32
平成23	11	1	1	17	30
平成24	11	7	1	13	32
平成25	15	2	4	1	22
平成26	8	5	1	4	18



勇壮な分列行進を披露

新春恒例の「つがる市消防団出初め式」が1月4日、松の館駐車場などで開催され、56分団の消防団員約1000人と消防車両56台が参加して災害のないまちづくりへの決意を新たにしました。

式に先立ち、福島市長をはじめ箱田鐵雄消防団長や消防団幹部らが、三新田神社で今年一年の無火災を祈願。出初め式では、各地区の消防団員が観閲者の福島市長から姿勢・服装点検を受け、市役所前の道路を力強く分列行進して士気を高めました。

その後、松の館で式典が行われ、福島市長は「崇高な消防精神のもと、市民の信頼と期待に応え、今後も安全で安心して暮らせる『つがる市』の構築のため一層の尽力をお願いします」とあいさつ。続いて箱田消防団長が「日頃から関係機関と連携を図り、災害現場で迅速に活動できるよう準備しておくことが重要。団員一丸となって業務に精励してください」と訓示を述べました。また、勇退団員に感謝状、優良分団および優良団員に表彰状が手渡され、万歳三唱で出初め式を祝いました。

新たな年の門出を祝う

平成27年新年祝賀会



輝かしい新年を祝う出席者

1月5日、「つがる市新年祝賀会」が松の館で開催され、多くの来賓や市民ら約200人が参加して新しい年の門出を祝いました。

福島市長は年頭のあいさつで「市民の皆さまと一体となった合併10周年記念事業の開催、今後のまちづくりについての意見を広く取り入れた第二次つがる市総合計画の策定、産業振興や市民活動の支援など、市民との協働によるまちづくりに全力で取り組みます」と述べました。

また、祝辞の後、宮本純一商工会長の発声で乾杯を行い、出席者は新年のあいさつを交わしていました。



年頭のあいさつを述べる福島市長

縄文文化の魅力語り合う

縄文語り部世界遺産ミーティング



紙芝居で縄文の魅力を発信

1月17日、県教育委員会が主催する「縄文語り部世界遺産ミーティング」が松の館で行われ、市民ら約50人が参加しました。

これは、北海道と北東北の4道県・18遺跡で構成される縄文遺跡群の世界遺産登録に向けた機運の醸成を図るために行われたもので、県内6カ所と東京都、仙台市で開催されています。

この日は、県教育委員会の岡田康博参事が世界遺産をめぐる状況について説明。市教育委員会の佐野忠史学芸員は遺跡群の一つである田小屋野貝塚等の発掘状況について報告しました。また、森田小学校イラスト部が制作した遮光器土偶発見の紙芝居が披露されるなど、発表者はさまざまな視点から縄文文化の魅力について語り合いました。岡田参事は「遺跡群が世界遺産に推薦される時期は必ず訪れます。それまでにPRするための拠点整備、人材育成、ツアーコースの設定など、海外から評価を受けやすくする工夫と努力が必要」と話していました。



世界遺産をめぐる状況に耳を傾ける参加者



交通安全を祈願する桜庭会長

今年一年の交通安全を祈願

今年一年の交通事故による死者ゼロを目指して、つがる地区交通安全協会（桜庭修会長）が1月7日、平成27年の交通安全祈願祭を三新田神社で行いました。

祈願祭には福島市長をはじめ、つがる警察署、つがる地区安全運転管理事業主会、安全運転管理者協会、市交通安全母の会連合会、地区交通指導隊などの代表者ら約20人が出席。参加者は祝詞奏上の後、玉串をささげ、交通安全を祈願しました。最後に桜庭会長が「昨年は残念ながら市内で4人の犠牲者があり、県でも非常警報を発令した死亡事故の多い年となりました。今年は関係団体が一丸となって無事故を目指して行きたい」とあいさつしました。

安全・安心の地域づくりに感謝

1月21日、平成26年警察協力功労者表彰式が松の館で行われ、地域での交通安全運動や防犯活動などに貢献した市内の8団体、個人13人が表彰を受けました。

表彰式では、上田修つがる警察署長が「警察活動にご協力いただき感謝します。今後とも安全・安心を実感できるつがる市の実現に向け、ご支援ご協力をお願いします」と述べ、一人一人に感謝状を手渡しました。また、9人の優良警察職員も表彰され、越前義晴警部補が「栄えある受賞を励みとしてさらに自己を磨き、謙虚に住民の声に耳を傾けながら、より一層職務に尽くします」と受賞者を代表して誓いの言葉を述べました。



感謝状を受け取る警察協力功労者



音楽に合わせて運動する参加者

若がえり目指してさわやかな汗

運動不足解消と健康増進を目的とした「若がえり健康教室」が1月6日、松の館で開催され、多くの市民らが参加しました。

健康運動指導士の鬼武由美子さん（板柳町）が講師を務め、参加者は音楽に合わせながら、姿勢調整ウオーキングやストレッチ、筋力トレーニングを組み合わせた運動でさわやかな汗を流していました。60代の参加者は「たくさん汗をかくと、ストレス発散になって、とてもスッキリします。正月太りも解消したい」と話していました。

昨年8月に始まったこの健康教室は、3月まで計14回開催されます。

ICT機器操作学び、学力向上へ

市教育委員会は1月13日、市内小中学校の教員を対象に松の館でICT機器操作の研修会を開催しました。

ICTとは、コンピューターやインターネットなどを用いた情報通信技術のことで、市では今年度、市内全ての小中学校の普通教室に電子黒板内蔵型プロジェクターなどの機器を設置し、ICTを活用した教育環境の充実を図りました。

研修会には約100人の教員が参加し、担当者の説明を熱心に聞きながら、電子黒板の操作を実践しました。参加した教員は「限られた授業時間で、ICT機器を活用しながら子どもたちが興味を持つ授業をしたい」と教育力向上に意欲を燃やしていました。



ICT機器の操作を実践する教員

県社会体育優良団体表彰を受賞 稲垣町バレーボール協会

県の社会体育優良団体として、稲垣町バレーボール協会(岡本幸剛会長)が、県教育委員会より表彰を受けました。

当協会は昭和59年の設立以来、地元子どもたちの育成に努め、旧稲垣村時代には全国大会での優勝に導くなど、地域の競技レベル向上に大きく貢献してきました。また、スポーツ教室やナイター大会の開催により、住民の親睦を深めながら競技の普及を図っています。

1月23日、市の葛西教育長へ受賞報告に訪れた岡本会長は「大変光栄です。少子化で子どもたちが少なくなっていますが、この賞を励みとしながら今後も全国大会出場などの実績を積み重ねていきたい」と話していました。



表彰状を手にする岡本会長(右)



かるたを楽しむ児童たち

郷土かるた大会で児童が熱戦

子どもたちに郷土の歴史や風土などを継承しようと1月11日、稲垣公民館で稲垣郷土かるた大会が行われ、小学生26人が学年対抗で熱戦を展開しました。

大会は稲垣子ども会育成連絡協議会(斉藤明会長)が主催して行われ、今回で36回目。かるたは46枚の札があり、「川沿いの一本タモを目印に 昔の人は 舟をこいだと」、「春一番のぼりや旗をなびかせて 春の大祭 赤倉神社」など、ふるさとの姿を凝縮した歌が書かれています。

児童たちは読み手の声に集中し、上の句が読み上げられると一生懸命、札を探し「はい」と大きな声をあげて札を取っていました。

将棋で世代間交流

親子将棋教室開催

1月10日、家族で触れ合いながら伝統文化を学ぼうと「親子将棋教室」が松の館で行われました。

これは県将棋連盟が今回初めて行ったもので、講師の北畠悟五段が駒の進め方や読み方のテクニックなど、参加者のレベルに合わせて指導しました。稲垣町から参加した渋谷みち子さんは「初心者ですがルールを覚えたら楽しい」と夢中で取り組んでいました。

1月中に4回行われた教室には約50人が参加。参加者は代わる代わる対局を行い、世代を超えて交流を深めました。北畠五段は「将棋は教育面や学力向上にいい影響を与えます。今後も将棋の普及を図りたい」と話していました。



世代を超えて対局を楽しむ参加者



グラウンドゴルフの腕を競う参加者

木造コミュニティ祭りで交流深める

木造コミュニティ実行委員会(白戸英行会長)が主催する恒例の「木造コミュニティ祭り」が1月12日、木造中央公民館で行われ、約50人の会員が参加しました。

体育館ではグラウンドゴルフ大会が行われ、参加者は4組に分かれて競技開始。プレー一つ一つに歓声が上がり、会場は和やかな雰囲気になっていました。他にもトランプ大会や新年交流会が行われ、参加者は互いに親睦を深めながら、交流の輪を広げていました。白戸会長は「定期的に集まって会員相互の連携を図り、『ごみゼロ運動』などを継続しながら地域社会に貢献したい」と今年の抱負を述べていました。